



2013年夏のグループ展  
「ふ・ふ・ふ・flower」。

## グループ展と 軌跡



初のグループ展「つづく、展」終了直後のメンバー集合写真。

### 手づくり 手さぐりの イベント開催

フラレン初のグループ展は、2012年6月の「つづく、展」でした。場所は東京・江戸川橋のGALLERY NIW。21人の作品をどう置こうかと相談の末、一人ひとつ白い箱を配布して、その中にメッ

セージや作品を入れる企画をしました。「みんなでつなげよう つづく、想い」と題して、人の形の紙につづけたことを書いてもらい、会場内に貼っていく、という参加型の展示や日替わりワークショップやパーティも行いました。メンバー21人のポートレートとプロフィール展示をしたのですが、これは思いのほか好評で、この本の原型といえる企画かもしれません。これをきっかけにイベントの楽しさに目覚め、秋には有志でデザインフェスタに参加しました。

2013年夏、メンバーの倉田園子が、自宅を改装してギャラリー兼カフェをオープン。開店記念に、1ヶ月以上に及ぶグループ展を開催しました。定休日をはさんで一週間ごとに「blue」「ふ・ふ・flower」「愛しのどうぶつ展」「うちわとてぬぐい 夏の和小物展」「Face×Face」という5つのテーマを設け、それぞれ展示グッズ販売+ワークショップという構成。チャリテイイベントと、このようなグループ展を開催することで、イベント

開催のスキルが上がってきたように感じています。

同時期に、『チャミングな大人のきもの読本』というムックを一冊まるごと請け負うという仕事をしました。124ページのデザインのほとんどをフラレンのデザイナー6名で分担。イラストも、取材して文章を書くのも写真撮影するのもメンバー、という仕事で、奥付にはじめて「クリエイター集団・フラレン」のクレジットが載りました。チームで大きな仕事を請ける、という目標の第一歩でした。

### メンバーそれぞれの 変化

2014年には、私、渡部瑞穂と星わにこの二人が新井薬師で「昭和な家1955」をはじめました。ポロポロの古民家をイベントスペースにしよ、ということまで有志が集結。壁紙をはがしてペンキを塗り、漆喰を塗り、コンクリートをタイル貼りに、リノベーションもすべてメンバーの手で。古民家は取り壊しまでの4年間、フラレ

ンの活動においてもいい基地になりました。移転して古民家からビルの一室へと姿は変わりましたが、現在は「昭和な家スタジオ」としてやっぱりフラレンの拠点になっています。

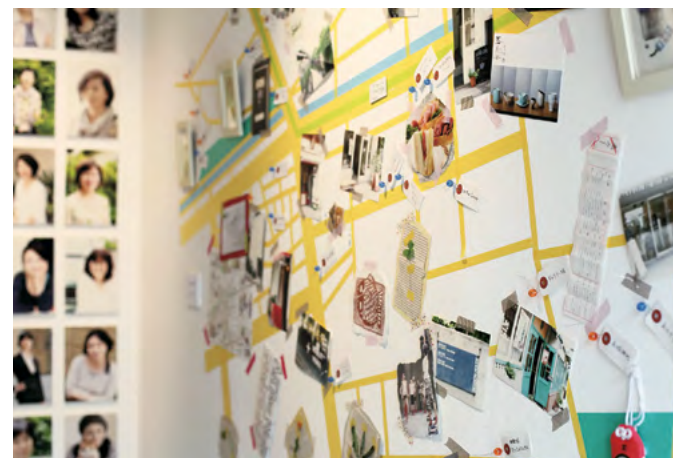
2015年、メンバーのナカイサヤカが日暮里にレンタルスペース「空とぶアルマジロ商店」をオープン。こちらを機にフラレンでは「開業支援パック」がはじまりました。一定額で必要な支援をセレクトしてオーダーしてもらおうような商品です。

2019年にはフラレン初の親睦旅行。北海道在住メンバーのヤマダユミが取り仕切り、10名で北海道を旅しました。10年の間に子どもも育って、自分たちだけで気軽に旅行できる日が来たわけです。

結成当時21人だったメンバーは、この10年で16人になりました。会社員になった人も、仕事が変わった人もいます。フラレンは一緒に仕事をつくるチームなので、一緒にしたい仕事がなくならなければいいです。チームを離れたあとも友人であることには変わりありません。



2014年「昭和な家1955」のリノベーション。みんなで壁塗り。



「つづく、展」では会場の江戸川橋近辺の案内マップを壁面に制作。